

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

夢がかなう

副校長 田邊訓志

私のこどもの頃からの夢の一つに、「卵からひよこをかえしたい」「(徳川家康と鷹狩りの鷹のように)鳥と、心を通わせてみたい」「にわとりを飼って、産みたての卵を食べてみたい」というものがありました。

さて、2年前、私が着任した前任校の飼育小屋には、20羽以上の烏骨鶏(うこっけい)たちがいました。えさを与えようと小屋に入ると、一斉に集まってきて、つぶらな瞳でこちらを見上げてきます。烏骨鶏は、にわたりの仲間ですが、大人になっても、ひよこの時のようなわた毛が体に多く残ります。さらに、羽の下の皮膚が黒いのが特徴です。餌をたくさん食べる割には、卵を産む量が少なく、春や秋の一定の時期にしか産みません。そのため、とても貴重な卵とされています。

5月、めすが多くの卵を抱いていました。多いものだと7～8個近く抱いています。さらに、抱えきれない卵が、遠くまで転がり、冷えてしまっています。残念なことに、貴重な卵を持ち帰る人はおらず、捨てられていました。安全上の理由から、子どもや地域の方にはお譲りできません。以前は職員が持ち帰っていたそうですが、当時は持ち帰る人はいませんでした。その理由は、卵を割った時に、育ちかけのひよこが出てこないか心配だったからです。

「せっかくの卵を無駄にしたくない」と思った私は、昔読んだ本、「たまごのひみつ」の内容を思い出し、卵の下からライトをあててみました。すると、発達が進んだ卵は光が通らずかげになり、発達が進んでいない卵は光がすき通ることがわかりました。こうして、安心して食べられる卵を見分けられるようになり、希望する職員が持ち帰れるようになりました。卵を持ち帰った職員の皆さんは、お礼にと定期的に烏骨鶏のえさをプレゼントしてくれました。

さて、発達が進んだ卵。こちらは、引き続き親鳥に温めてもらうことにしました。卵が孵化するまでにかかる日数は約21日です。やがて親鳥の足元から、ひよこが1羽、2羽と顔を出すようになりました。卵がかえったのです。すると、困ったことが起きました。親鳥は、先に生まれたひよこたちのことで精いっぱいなのか、まだ孵化していない卵を周りに散らかすようになりました。また、あとから孵化しかけているひよこを強くつついたり、足で踏んづけたりするようになりました。そのせいか、孵化しかけのひよこが朝、冷たくなっていることもしばしばありました。

私は、ある夕方、冷たくなりかけている瀕死のひよこを見つけました。すぐに両手のひらで包み、温めました。鳥の体温は約41度。人の体温では足りないと思い、お湯に手を交互にひたしながら、温め続けました。すると、手のひらに伝わるひよこの心臓の鼓動が、驚くほど強くなっていきました。与えられた命を、再び燃やそうとする、強い生命力を感じました。家に持ち帰ったひよこを、私の2人の娘が交代で、布団の中で夜通し温め続けてくれました。そのかいもあって、ひよこは、翌朝無事に孵化しました。

種類は黒烏骨鶏だったので、名前を「くろ」と付けました。今でも、私の家にいます。もう生まれて2年以上になる大人なのに、人を見ると駆け寄ってきて抱っこをせがんだり、肩に乗ってきたりします。雌なので卵を産みます。産みたての卵で作った目玉焼きは、格別です。

こうして、私は今、一つの夢をかなえています。そうそう、ここではお話できませんでしたが、「自分の力で、卵を孵化させる」夢もかないました。人工化の成功です。この話は、また別の機会にしたいと思います。

つぎは、どんな夢がかなうのか。楽しみです。そのためにも、「こうだったらいいな、すてきな。」と思うものを、たくさん見つけておこうと思います。みなさんは、どんな夢を、もっていますか？